

金融安定理事会による報告書「気候変動の金融安定に対するインプリケーション」 エグゼクティブ・サマリー（仮訳）

- 本報告書は、気候変動の金融安定への潜在的なインプリケーションについて議論し、金融システムに影響を与えうる気候関連リスクの波及経路を調査するもの。加えて、気候関連リスクの影響を増幅させる可能性のある金融システム内の潜在的なメカニズムや、リスクの国境を越えた波及について検討している。本報告書は、官民セクターによる既存の作業を参考にしている。こうした作業は、金融安定に対するリスクの考察としては未成熟な部分もある。よって、本報告書は、既存の文献で議論されている内容を越えた問題を提起しているところもある。
- 気候変動の金融安定へのリスクは、物理的リスクと移行リスクに大別される。気候変動が継続することから生じる実際の/予想される経済影響（物理的リスク）や、低炭素経済に向けた調整（移行リスク）により、金融資産・負債の価値は影響を受けうる。
- 物理的リスクが資産価格に与える影響の現時点での中心的な見通しは、比較的抑制的なものであるように見えるが、非常に大きなテールリスクを抱えているかもしれない。物理的リスクの顕在化、特に気候変動とその経済的影響の自己強化的な加速によって引き起こされるものは、資産価格の急落と不確実性の増大をもたらす可能性がある。これは、比較的短期的なものも含めて、金融システムを不安定化させる影響を与える可能性がある。マーケット・リスクや信用リスクは、実体経済の特定のセクターや特定の地域に集中している可能性もある。国レベルでも混乱が生じる可能性がある。気候関連リスクにより脆弱な一部の新興国・途上国（EMDEs）、特に金融リスクを共有するメカニズムが比較的未発達な国は、とりわけ影響を受けるかもしれない。
- 低炭素経済への無秩序な移行も、金融システムを不安定化させる影響を与えうる。これは、物理的リスク顕在化の増加や技術発展に起因するものも含めて、市場参加者の予期しない突然の（実際の、もしくは予想された）政策変化によりもたらされる可能性がある。そうしたシナリオの下では、物理的リスクと移行リスクが結び付き、金融安定へ

の全般的な影響を増幅する可能性がある。低炭素経済への移行が十分に予想されている場合の資産価格に与える影響の中心的な見通しは、計測上の不確実性は大きいものの、比較的抑制されている。

- 気候関連リスクは、グローバルな金融システムがショックに対してどのように反応するかについても影響を与えるかもしれない。気候関連リスクは、多岐にわたる資産のリスク・プレミアムの急激な上昇をもたらすかもしれない。また、セクターや法域をまたいで資産価格の動き（や相関）を変化させ、信用リスク、流動性リスク、カウンターパーティー・リスクを増幅させ、予測が困難な形で金融リスク管理に課題を突き付ける可能性がある。このような変化は、リスク分散と管理に関する現在のいくつかのアプローチの有効性を弱める可能性がある。これは、結果として、金融システムの強靭性に影響を与え、銀行貸出や保険商品の提供を自己強化的に減少させる可能性がある。
- 気候関連リスクの拡がりや規模は、他の経済リスクと比較して、これらの影響をより深刻なものにする可能性がある。さらに、気候関連リスクと他のマクロ経済の脆弱性との相互作用は、金融安定に対するリスクを増大させる可能性がある。例えば、気候変動に対して特に脆弱な EMDEs の一部は、国境を越えた銀行貸出にも依存している。
- 気候関連リスクへのエクスポージャーを削減もしくは管理するために、金融機関は様々な行動をとることができるし、実際にとっている。しかし、一部の当局は、ほとんどの金融機関でこれらが体系的に行われているわけではないと指摘している。また、顧客の気候関連リスクへのエクスポージャーもしくは効果の大きさを評価するためのデータの欠如により、金融機関によるリスクの緩和措置も妨げられているかもしれない。加えて、個々の金融機関がとった措置それ自体は、金融安定に対するより広範な気候関連リスクを緩和しないかもしれない。気候関連リスクを評価するための情報を充実させるためのイニシアチブは、強固なリスク管理の礎となるかもしれない。

以 上